

修理工事こぼれ話③⑥ 楼門から出てきたもの

阿蘇神社の楼門は嘉永3年(1850)に完成した建物です。今年で築170年となるため、楼門そのものには建物のデザインや墨書、修理・改造の痕跡など、その170年の歴史を示すものが様々な箇所に残されています。

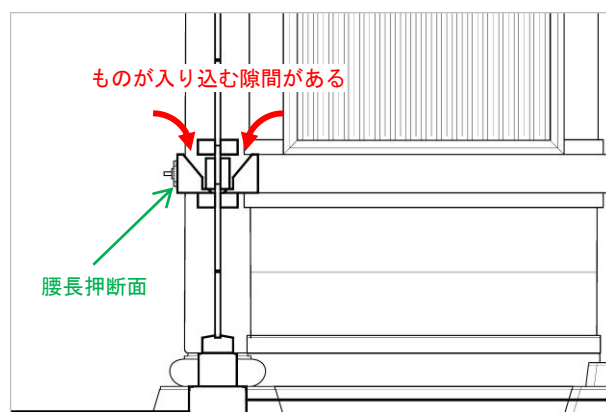
それとは別に、楼門のどこかにあったと思われるものが今回の解体修理工事の際に色々出てきました。これらもある意味170年の歴史を示すものだと思います。今回は、楼門修理工事中に出てきたものを紹介します。

1. ものがあったと思われる場所

楼門が倒壊している状況で発見されたので詳細は不明ですが、可能性のひとつとして腰長押(こしなげし)との隙間から出てきたのではないかと思います。ここでしたら、ものが入り込む隙間があります。また、楼門には2階があるので、そこにあったものも楼門の部材に紛れて出てきたのかもしれませんが。



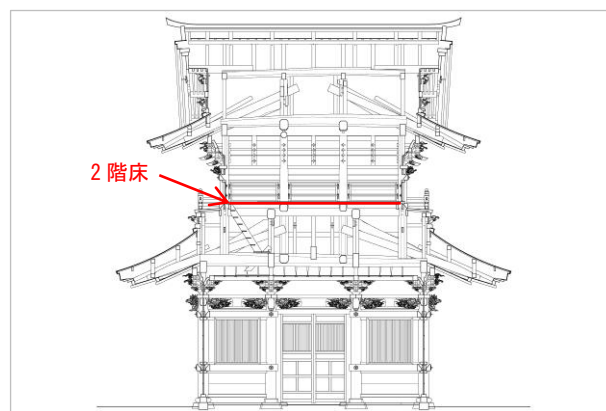
楼門 下層正面
2011年撮影。



楼門 下層腰長押 断面詳細
ものが入り込む可能性が高い箇所です。



楼門 2階内部
2011年撮影。

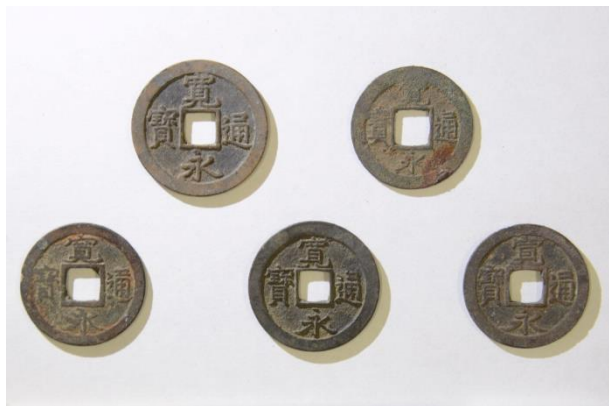


楼門 桁行断面図
上層に床があり、ものを置くことができます。

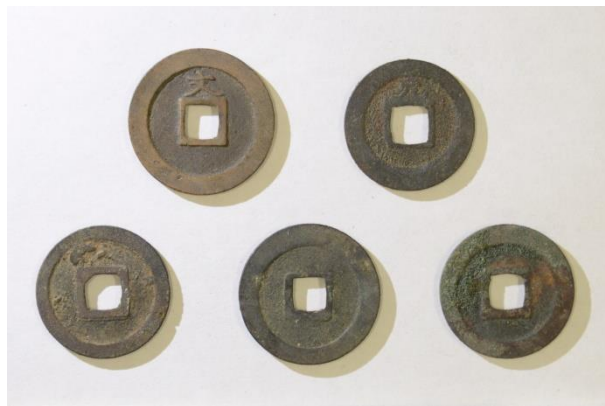
2. 楼門から出てきたもの① -硬貨-

まず、古い時代の硬貨が出てきました。

下の2枚の写真は寛永通宝で、江戸時代に広く流通した銭貨です。お賽銭の代わりに楼門に置いていったのでしょうか。楼門からは比較的状态の良いものが5枚出てきました。見比べてみますとそれぞれ少しずつ大きさが異なりますが、造られた時期・場所などが異なるからだと思います。ちなみに、5枚のうちの2枚に、裏に「文」や「元」の文字が表記されています（右写真）。インターネットで検索してみたところ、これらはそれぞれ、寛文8年（1668）に江戸亀戸で発行されたものと、寛保元年（1741）に大坂高津で発行されたものだそうです。



楼門から出てきた寛永通宝（表）
どれも「寛永通寶」と表記されています。



楼門から出てきた寛永通宝（裏）
上の2つに文字が表記されています。
左より「文」、「元」。

明治時代の硬貨では、2銭の硬貨が出てきました。

2銭は0.02円にあたり、2銭の硬貨50枚で1円となります。表は、中央に竜が描かれ、その周りに「2 SEN」「大日本」「明治六年」と表記されています。裏は、中央に「二銭」と表記され、上部に「五十枚換一圓（円）」と表記されています。

ちなみに、2銭の硬貨というと、個人的には江戸川乱歩の『二銭銅貨』という小説を思い出します。この作中に出てくる二銭銅貨と楼門から出てきた2銭の硬貨は同じ種類の硬貨であるようです。



楼門から出てきた2銭の硬貨（表）



楼門から出てきた2銭の硬貨（裏）

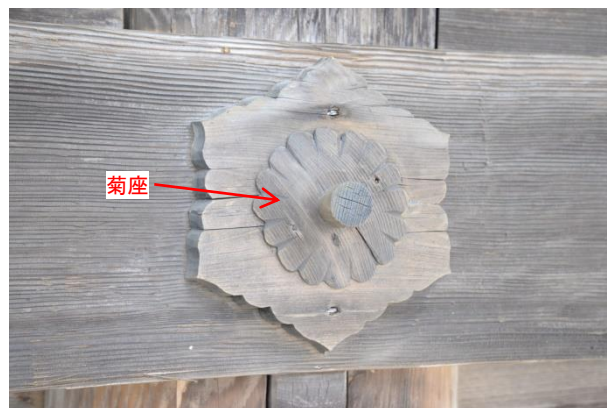
3. 楼門から出てきたもの② - 銕金具 -

次に、銕金具（かざりかなぐ）の一部が出てきました。

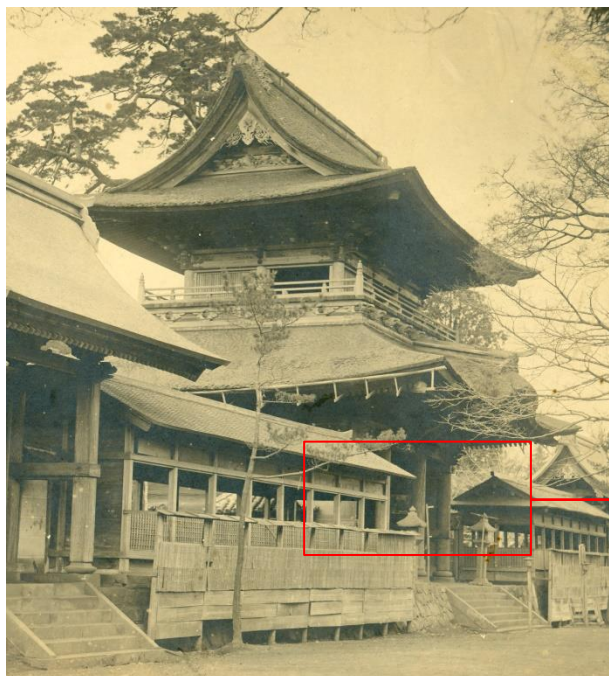
銕金具とは、装飾や補強の意味で打ち付ける金具で、彫金したものもあります（建築大辞典より）。今回出てきたものは（左写真）、長押などに取り付ける釘隠し（くぎかくし）の一部である菊座（きくざ）と呼ばれる部分であると思われます。右下写真は二の神殿の木製の釘隠しですが、矢印で示した箇所が菊座となります。楼門には上層の長押にのみ木製のものが付けられていますが、古写真をみると下層の長押にも釘隠しを取り付けており、実際、銕金具の釘隠しを止めていたであろう銅釘が下層長押に残っています。楼門から出てきた菊座は、下層に取り付けていたものか、上層のものも以前は銕金具で、上層に取り付けていた可能性が考えられます。何かの折に取り外し、2階に保管されていたのかもしれませんが。



楼門から出てきた銕金具（菊座か）



二の神殿 木製釘隠し（六葉）



楼門全景 古写真

明治 25～大正 6 年（1892～1917）頃



楼門上層 木製釘隠し（六葉）



楼門下層正面部分拡大

赤丸の箇所に六葉型の釘隠しがあります。

以上、楼門から出てきたものを紹介しました。修理工事では建物そのものから歴史を追える痕跡を探していくことをしますが、このように建物から出てきたものからわかることもあり、こういった発見も色々と興味深いものです。（石田 陽是）